

2019年5月7日 伝統と変革について

※一言要約： 伝統をまもりつつ、新風を！

令和、おめでとうございます。

天皇の交代について、思うことが二つありました。

一つは、世間では60～70歳ぐらいで定年退職し、第2の人生であったり、隠居生活を送るなどが一般的な中、天皇陛下には85歳まで公務をしていただき、働き方改革とは程遠いなあと感じていました。

二つ目は、以下の2019.4.30産経新聞の記事に関することです。

「皇后さまのご活動 伝統守りつつ皇室に新風」

皇后さまは皇室に「民間」から初めて嫁ぎ、3人のお子さまを手元で育てるなど、新しい家族像を築いた一方、歴代皇后が取り組む養蚕や日本赤十字社などの活動を継承し、発展させてこられた。児童書やピアノなど私的な活動でも国民と交流を深められたとありました。

即ち、伝統は基本的には守るが、時代に合わせて変革も必要であり、皇室でも実施されてきたということだと思いました。

製造現場に当てはめて考えると、手順書やマニュアルは守りつつ、現状に合わせて改革・改善していかなければならないということでしょう。改革・改善といえども、手順書やマニュアルを無視するのではなく、変更・改訂して使っていくということです。

何かにつけ、自分たちの身の回りに当てはめて考えることは面白いですネ。